

2010 年世界ジュニア選手権報告書（チェコ・ピルゼン）

はじめに

第 28 回世界ジュニア選手権大会がチェコ・ピルゼンにて 8 月 30 日(月)～9 月 4 日(土)にかけて開催されました。本大会には世界 27 か国から 191 名の代表選手が参加し、各国の代表として世界一の称号をかけて競い合いました。

岡山大学からは西村義人(医・2)が日本代表選手として男子 67.5 kg 級に出場しました。また、OB の阿南さんが日本選手団の審判員として同行されました。

西村選手の出場した階級には各国代表の強豪たちが集まり、接戦が予想されていました。しかし、当日セコンドをしてくださった阪南大学の印藤コーチとの連携により、慣れない試合会場でも力を発揮でき、トータル 640kg で見事 4 位入賞という好成績を収めることができました。

なお、大会の様子は IPF ホームページよりリアルタイムで動画配信されました。

選手・審判員紹介

にしむらよしと
西村義人 男子 67.5 kg 級



写真左から 3 人目：西村

あなんよしひろ
阿南喜裕さん（国際 2 級審判員）



第 8 代 OB

行程

◆8/27(金)

岡山大学出発→成田

◆8/28(土)

成田→フランクフルト→プラハ→ピルゼン



外気は 20℃を切り、快適に過ごし易いどころか肌寒いくらいです。

◆8/30(月)～9/4(土) 大会開催期間

OB の阿南さんは下記で審判をされました。

9/1(水)10:00～ジュニア男子

第 3 セッションで審判

9/2(木)15:00～ジュニア男子

第 3 セッションで審判

9/4(土)11:00～ジュニア男子

第 2 セッションで審判

◆9/5(日)

ピルゼン→プラハ

◆9/6(月)

プラハ→フランクフルト→成田(翌日)

◆9/7(火)

羽田→岡山大学

チェコ・ピルゼン

チェコ・ピルゼンとの時差は 7 時間。プラハ、ブルノ、オストラバに次ぎチェコ第 4 の都市であり、ピルゼンビールの醸造で知られています。



◆西村による大会報告◆

大会 1 日目

今回は女子2人のセコンドをすることにもなっていました。まずジュニア女子 48kg 級の根本選手。

最大限の駆け引きをした結果、デッドリフトで銀メダルを獲得できました。初日からのメダル獲得に、日本選手団が幸先のよいスタートを切れました。また、メダリストのセコンドに就くことができて良かったと思います。セコンドを終えた後は応援に徹しました。



西村と根本望選手(順天堂大学)

で9名の出場選手中、4位入賞を果たすことができました。

最後の種目であるデッドリフトでメダル獲得を目指しましたが、肩を痛めていたため思い通りの試技ができずメダルを逃してしまいました。

今大会を区切りにまず、怪我を完治させたいと思います。その上で、さらに練習を積み、来年の世界大会でメダル獲得を目指したいです。



デッドリフト 245 kg に挑戦する西村

大会 2 日目

数名の日本選手が出場し、特にジュニア男子 60kg 級で阪南大学の久保元人選手が出場されました。久保選手の得意種目であるデッドリフトでは惜しくもメダルを逃し、4位入賞でした。

大会 3 日目(試合当日)

大会3日目の午前中に私の出場したジュニア 67.5kg 級の試合が行われました。

今大会は、ジュニアになって初の世界大会でした。予選記録では種目別でメダルを狙える位置にいたため、気合いを入れて大会に挑みました。

結果、スクワット 240kg・ベンチプレス 155kg・デッドリフト 245kg・トータル 640kg

大会 4 日目

4日目にも女子 75kg 級高野選手のセコンドに入り、彼女はシングルベンチの日本記録を樹立しました。

セコンドをした選手が大記録を残してくれたことを嬉しく感じました。



西村と高野梓選手(ノーリミッツ)

大会 5 日目・6 日目

重量級の試合が行われ、特に男子 125kg 超級では 1 ～ 3 位の選手のトータルが同重量であるなど、最後まで手に汗握るような接戦が繰り広げられました。

レセプションの様子



日本選手団はもちろん、世界各国の選手と交流を持つことができ、とても楽しいパーティーでした。

おわりに

世界大会に出場するにあたり、多くの方にご支援・ご声援をいただき本当に感謝しています。また、日頃からお世話になっている OB・OG さんや後援会の皆様、並びにコーチングスタッフの皆様、本当にありがとうございました。世界で結果を残し、素晴らしい経験ができたのも皆様からの応援があってこそだと改めて感じました。

日本から応援してくれる部員、家族や友人など、たくさんの人に支えられることで頑張れたのだと思います。今回の経験を踏まえ今後も練習を積み、強くなって来年も世界へ挑戦したいと思います。

本当にありがとうございました。



日本選手団



阿南さんと西村